

賞賛の声

ただ驚くばかり。すばらしい本である。System 6の時代からマックを使っているが、新しいことをいくつも学べた。上級者であっても、必ず新鮮な発見があるはずだ。

— Patrick Burleson (BitBQ, LLC代表、<http://bitbq.com/>)

とっつきやすさが魅力。必要な情報が凝縮されていて、無駄がいったい少ない。興味深く、すぐに実践できることばかりだ。

— Angela Murtha (Girl Meets Bit, LLCのiOSコンサルタント、<http://www.girlmeetsbit.com/>)

マックのカスタマイズをオレンジにたとえるなら、その果汁を一滴残らず絞り取った一冊。これ以上の攻略本があるとは思えない。

— Jon Kurz (Dycet, LLC代表)

とても気楽に読める。マックユーザの必需品だろう。初心者から上級者まで、すべてのユーザに役立つ貴重な小技／大技が満載である。自分の母親から会社の同僚まで、どんな人にも推奨できる本だ。

— Wesley Matlock (O.coのモバイルチーム開発主任、<http://www.overstock.com/>)

訳者まえがき

この本のことを初めて知ったのは原書の出版社であるPragmatic Bookshelfからのメルマガでした。本の概要を読むと、マッキントッシュ（マック）を使うためのワザ（tip）を集めた本のようにです。この種の本は10年ほど前まではよく見かけたのですが、最近はあまり見なくなりました。

そういった本の多くに載っているワザは、初心者向けで何年もマックを使っているような人は知っているものばかりだったり、システムの細部をいじってしまうためOSのバージョンアップなどがあると使えなくなってしまう、といったことが多かったのです。中には、システムの設定をおかしくしてしまってマックが動かなくなってしまうようなものもありました。

その一方で、マックの基本ソフト（OS）自体が進化して、必要な機能を普通に使えるようになってきたので、わざわざこういった本に頼る必要も少なくなったということも、ワザを集めた本がほとんど出版されなくなった原因でしょう。

「今さらマックのtip集を出してもなあ〜」と、本文は読まずに翻訳する本の候補からは外してしまいました。

ところが、しばらくするとオライリー・ジャパンの方からこの本を読んでみてほしいというお話がやってきました。出版社からのお話ならば無視するわけにもいかず、本文を読み始めました。

読み始めてビックリ。マックを使い始めてもう25年、マックに関する本を何冊も訳し、一応「ベテランマックユーザ」のつもりでいた私が知らないワザ、それとても役に立つワザがたくさん載っているではありませんか。おもしろくて止まらなくなっていました（村上春樹の『1Q84』以来の熱中ぶりでした！）。多くのベテランユーザも、同じ感想をもたれるのではないかと思います。

この本のとてもよい点は、ほとんどのワザについてどうすれば元に戻せるのかが書いてあるということです。後半の章にはシステムの設定を変更するワザがたくさん登場しますが、気にいらなければ説明に従って元に戻すことができます（ごく一部それが不可能なものもありますが、そういったものにはその旨が示されています）。ですから安心していろいろなワザを試せるのです。

英語版（原書）と日本語版の違いについてまとめておきます。英語版では、300を超えるすべてのワザが、（なんと）ひとつの章にまとまっていて、まったく分類されずに並んでいました。しかし分類されていたほうが読みやすく、あとで参照しやすいだろうということで、すべてのワザを分類して複数の章に分けることにしました。分類してほしいと思う人の割合は、日本人のほうが欧米人に比べてかなり高

いのではないかと考えました。昨年夏、急逝されてしまった先輩翻訳家の山岡洋一氏は「原著者が日本人だったらこう表現するだろうという訳文にするのが翻訳だ」とおっしゃっていましたが、原著者のKeir Thomas氏が日本人だったら、きっとすべてのワザを分類してから出版したのではないかと思うのです。

英語版は10.7 (Lion) を対象としていましたが、10.7からはPowerPC用のアプリケーション (アプリ) が動かなくなってしまったので今も10.6 (Snow Leopard) を使っているユーザーは多そうですし、翻訳の途中で10.8 (Mountain Lion) が発表されてしまったこともあり、10.6から10.8までで動作を確認することにしました。この素晴らしい本を「10.7専用」としてしまふのはあまりにもったいないというのがその大きな理由です。もうひとつついでに、「10.9以降でも使えそう」マークも付けることにしました。10.6から10.8までの状況から見て「突然動かなくなることはなさそうだ」という訳者の予想です。10.9 (あるいは「iOS for Mac」でしょうか) が公開された暁には、サポートページで訳者の予想が当たったか公開したいと思っています。

日本語版では、ワザをすべて分類して並び替える際に、初心者の方にも使いやすい、OS Xに最初から付属しているアプリに関するワザを最初のほうにまとめました。このため、パソコンでネット検索をしたことのある人ならば十分読みこなせるようになったのではないかと思います。前提となる知識を補うために、原著の冒頭にあった用語等の説明に、初心者向けの説明を加え付録Aとしてまとめました。また、付録Bには10.8でOS Xとの統合がだいぶ進んだiCloudの機能についての解説を加えました。これを読んでいただければマックとiCloudがどのような関係にあるのかおわかりいただけるのではないかと思います。なお、本文には動作確認作業の途中で気がついた、読者の皆さんのお役に立ちそうな情報も少し加えてあります。

翻訳作業中に10.8 (Mountain Lion) が発表され、翻訳作業が終わる頃に正式版が公開されましたが、10.7で動いていたワザのほとんどが10.8でも動作しました。おそらく「10.9」でも同様ではないかと思えます。

この本を読み始めてから、Spotlight スポットライト かMission Control ミッションコントロールなどを特によく使うようになりました。今まで買ってはあったものの宝の持ち腐れ状態だった外付けのトラックパッドも、「もはやこれなしでは過ごせない」ほど便利に使っています。

この本のおかげで、マックを使うのが以前にも増して快適に、そして楽しくなりました。皆さんにも同じように感じていただければ幸いです。

2012年9月
マーリンアームズ株式会社
武舎広幸

まえがき

筆者はこれまで、さまざまなコンピュータ上で、ありとあらゆる基本ソフト（OS）を使ってきました。そして、こうしたOSやコンピュータに関してさまざまな記事や本の執筆をしてきました。その私がおっきりと断言できます。現在のマッキントッシュ（マック）のOSであるOS Xはソフトウェア技術の頂点を極めたものであると。

ひとことでいえば、OS Xは「心地よく使えるOS」です。それは多くの利用者也感じているとおり、非常に価値があることです。ウィンドウズを使っていると、操作がぎこちなかったり、利用者に難問をつきつけるような動きをしたりすることがあります。そんなとき、マックの使い心地の良さを思い出すのです。

でも、私はマックの快適さを楽しむだけではありません。細かいところにこだわるたちなのです。隠れた設定や機能を見つけ出し、試してみるのが大好きです。ほかの誰も知らないような、新しくカッコイイ機能を見つけたときの何とも言えない気持ちが多分好きなのです。

それがこの本を書くことになった動機です。ここまで深く、しつこく、OS Xを追究した本は初めてではないかと思えます。私のように、こうしたことに強い情熱を傾ける作者はなかなかいないでしょう。

この本で紹介する300あまりのワザはすべて、以下にあげる基準をひとつ以上満たしています。

- マックの初心者からベテランユーザまで役立つものであること（上級者でも楽しめる内容になっています）
- マックの使い方に対して、本質的な改善を施すものであること
- OS Xの驚くべき機能を紹介するものであること
- 楽しく興味深いものであること

合計で400以上のワザ（tip）を集めました。そこから300ほどを厳選しました。華々しい内容ばかりではなく、一見地味なものもありますが、皆さんの作業をより効率的なものに、そしてより楽しいものに変えてくれるワザが集まっています。

ただし、この本にはマックを使い始めて1週間もすれば習得できるような初歩的なマックの利用法は含まれていません。それよりもあまり知られていないOS Xの機能やワザ、そして隠された設定を使って、マックを効率よく利用する方法を紹介しています。OS Xの素晴らしさを、余すところなく紹介するのがこの本の目的です。

2011年11月
Keir Thomas

この本の読み方

さまざまワザを集めました。特にお勧めする読み方はありません。ある程度マックを使ったことのある人ならどこから読んでもけっこうです。1ページ目から読んでも、真ん中からでも大丈夫です。最後のほうから前に戻って読んでもよいでしょう。とにかく読み始めてみてください。そして、気に入ったワザを見つけたら試してみてください。

マックを使い始めてから日が浅い人、初心者の方はまず付録Aを、続いて最初の章をお読みください。あとは好きな順序で読んでいただいてもかまいません。

中にはやや複雑なものもあります。そういったものは、マックで試しながら説明を読むことをお勧めします。また、システム関連のファイルの設定を変えてしまうものもあります。経験からいうと、どうすればよいのかよくわからないときは、ひとまず止めておくのがよいでしょう。いろいろな操作に慣れてから、再度チャレンジしてみてください。

この本の英語版ではOS X Lion (10.7) のみで検証を行っていましたが、日本語版ではSnow Leopard (10.6) とMountail Lion (10.8) についても確認作業を行い、動作するかしないかを明示しました。また、次に発表されるであろう10.9 (「XXX Lion」になるのか、はたまた「Cat」になるのか定かではありませんが) で、「これまでの状況からしてこうなるだろう」という予想も載せてみました。

さらに古いバージョンやさらに新しいバージョンについても、動作するものも多いでしょうが、(今のところ) 確認は行っていません。

なお、OSのバージョンアップなどに伴って、ここで紹介したワザが皆さんの環境では動かない場合もあるかもしれません。その場合は、訳者のサポートページ[†]からご連絡いただければ幸いです。

追加アプリは不要

この本で紹介するワザを実行するのに必要なものは、OS X搭載のマッキントッシュだけです。ほかには何もいりません。ほとんどのワザは、MacBook Air、MacBook Pro、Mac Mini、iMac、Mac Proなど、どのモデルでも使えますが、一部、ノートブックモデルに限定したワザもあります。

新しくアプリケーション (アプリ) を買う必要はありません。もともとマックがもっている機能を高め、活用し、ひと工夫を加えるためのワザの集まりです。OS Xにない重要な機能を補完するために、追加のアプリなどをダウンロードするよう勧めているワザもいくつかありますが、すべて無料のものです。

[†] 日本語版には訳者がサポートページを提供しています。
<http://www.marlin-arms.com/support/mackungfu/>

再配布について

この本で紹介している内容は、ブログなどに自由に転載していただいてもかまいません。何でもかんでもコピーしてしまうのは出版社の方々にとって喜ばしいことではないのですが、2、3個を紹介していただけるのであれば嬉しいかぎりです。その際には、よろしければこの本について触れていただき、英語版の公式ウェブサイト (<http://pragprog.com/book/ktmack/mac-kung-fu/>) を記載してください。

意見と質問

この本（日本語翻訳版）の内容については、最大限の努力をもって検証および確認していますが、誤りや不正確な点、誤解や混乱を招くような表現、単純な誤植に気づかれることもあるかもしれません。この本を読んで気づいたことは、今後の版で改善できるようお知らせください。将来の改訂に関する提案なども歓迎します。連絡先を以下に示します。

株式会社オライリー・ジャパン

〒160-0002 東京都新宿区坂町26番地27 インテリジェントプラザビル1F

電話 03-3356-5227

FAX 03-3356-5261

電子メール japan@oreilly.co.jp

この本のウェブページには、追加情報が掲載されています。次のアドレスからアクセスできます。

<http://www.oreilly.co.jp/books/9784873115825/>

<http://pragprog.com/book/ktmack/mac-kung-fu/>

オライリーに関するそのほかの情報については、次のオライリーのウェブサイトを参照してください。

<http://www.oreilly.co.jp/>

<http://www.oreilly.com/>

翻訳者のサイトには簡単な紹介、ターミナルに入力する文字列の一覧（コピー＆ペースト用）、追加情報、正誤表などが掲載されています。

<http://www.marlin-arms.com/support/mackungfu/>

謝辞

たったひとつの章しかない原稿[†]をおもしろいと信じて疑わずに持ち込んだ私を、門前払いもせずに話を聞いてくれたPragmatic Bookshelfの皆さんに感謝します。また、編集を担当してくれたJackie Carter氏をはじめとする、飛び抜けて先進的な目をもった編集部の方々にお礼申し上げます。

この本の出版に先立って実際に内容を試し、重要な改善を提案してくれた皆さんにも感謝します。Daniel Bretoi、Patrick Bureson、Bill Dudney、Isaac Dudney、Kevin W. Gisi、Jon Kurz、Wesley Matlock、Angela Murtha、Mike Riley、Matt Swainの各氏です。

最後に、正式出版前のテストに参加してくれた方々に感謝します。皆さんからの指摘の数々が、この本をよりよいものにしてくれました。

[†] 英語版はすべてのワザがひとつの章にまとまっていました。

目次

賞賛の声	v
訳者まえがき	vi
まえがき	viii
1章	オールスター選抜チーム 1
#001	マウスを使わずにSpotlightからアプリを起動 2
#002	ショートカットキーの長押しと短押しを使い分ける 3
#003	プロキシアイコンをドラッグして作業中のファイルを別アプリで開く 3
#004	プレビューで複数の画像をひとつのPDFにまとめる 4
#005	フルスクリーンでクイックルック 6
#006	Mission Controlでクイックルック 6
#007	Safariでサイトの上位ページに素早く移動 9
#008	頻繁にメールを送る人用のショートカット 9
#009	テキストを巧みに選択 11
#010	ムービーの再生位置の微調整 12
#011	フルスクリーンモードのときにDockを表示 12
#012	マウスを使わずキーボードでメニュー項目を選択 13
#013	プリントジョブをクイックルック 14
#014	複数ページをもつPDFを即座に見分ける 14
#015	Time Machineからファイルを削除 15
#016	アプリケーションスイッチャを使いこなす 16
#017	マックの保証期間の確認 18
#018	アニメーションをスローモーションで表示 18
2章	プレビュー 21
#019	プレビューで画像やPDFファイルをブックマークしてすぐにアクセス 21
#020	プレビューで写真やPDFを簡単に拡大 22
#021	プレビューでiPhoneやiPadから写真やムービーを取り込む 22
#022	プレビューで複数の写真の編集を一度に行う 23
#023	プレビューで署名やスケッチを入れる 24
#024	プレビューでPDFに手書きのスケッチを追加 26
#025	プレビューでPDFに注釈やパスワードを付加 26

	#026	プレビューでPDFファイルの軽量化	28
	#027	プレビューでPDFファイルの閲覧を高速化	29
	#028	プレビューで画像を実際の大きさで見る	29
3章		Safari	31
	#029	Safariで即座にネット検索	31
	#030	選択した文字をショートカットキーでネット検索	32
	#031	ダウンロードファイルの入手先を確認	32
	#032	Safariの検索欄	32
	#033	Safariのフルスクリーン表示時のウインドウの縮小	33
	#034	Safariに表示されているページをほかのブラウザで表示	33
	#035	Safariでウェブページをディスクに保存	33
	#036	Safariでページの構成ファイルをダウンロード	34
4章		メール	37
	#037	文書や写真を素早くメールで送る	37
	#038	メールを書式装飾抜きで見る	37
	#039	メールの内容をほかのアプリに素早くコピー	38
	#040	派手派手メール	38
	#041	複数のメールを一括で転送	40
	#042	メールの動作を軽く	40
5章		その他の標準アプリ	41
	#043	iTunesの曲をスクリーンセーバから再生	41
	#044	iTunesのビジュアライザの設定を変更	42
	#045	Photo Boothでフラッシュやカウントダウンをオフにして写真撮影	42
	#046	写真やムービーの隠し情報をすべて表示	42
	#047	スティッキーズの新規メモを手っ取り早く作成	43
	#048	数字を大きな字で表示してメモ書きを楽に	44
	#049	Safariやターミナルでタブを別ウインドウに表示	45
	#050	タブを素早く切り替える	45
	#051	履歴表示用のショートカット	45
	#052	計算機の計算結果をコピー	46
	#053	マックの辞書を最大限に活用	46
	#054	辞書の単語を一瞬で検索	47
	#055	連絡先の共有	48

#056	任意のアプリの環境設定を素早く行う	49
#057	テキストエディットで指定した行にジャンプ	50
#058	テキストエディットで英語以外をスペルチェック	50
#059	テキストエディットの文書中に自動的にリンクを生成	51
#060	テキストエディットの検索機能を使いやすく	51
#061	テキストエディットにワードカウント機能を追加	52
#062	カレンダーのイベントをCover Flowで見る	53
#063	カレンダー (iCal) を賢く使う	54
#064	iCalで2週間の予定を表示	56

6章 文字や文書 59

#065	ページアップとページダウンでカーソルも移動	59
#066	改行文字、タブ文字の検索	60
#067	書類の要約を作る	60
#068	テキストからフォントとスタイルをコピー	61
#069	特殊な文字の入力	61
#070	アクセントやウムラウトなどの付いた文字を入力	63
#071	文書テンプレートおよび定型テキストの作成	65
#072	テキストの一部を再利用に備えて保存	66
#073	絵文字の利用	67
#074	英単語のオートコンプリート	68
#075	書式なしのコピー&ペースト	69
#076	入力しながら英文法をチェック	70
#077	英語のスペル辞書を修正	71
#078	フォントサンプル書類を作る	71

7章 画像、サウンド、ムービー 73

#079	クリップボードの画像をファイルに保存	73
#080	スクリーンショットを撮る	73
#081	スクリーンショットをクリップボードにコピー	75
#082	スクリーンセーバのスライドショーを制御	75
#083	壁紙用フォルダの追加	75
#084	スクリーンセーバの画像を壁紙に	76
#085	壁紙のサムネイル画像を拡大	77
#086	自分のマックからプロ並みのポッドキャスト	77
#087	ムービー、スクリーンキャスト、ポッドキャストを収録	78

#088	QuickTime Playerの中で動画を編集	80
#089	QuickTime Playerで再生できるファイル形式を増やす	81
#090	トラックパッドを使って動画の再生速度を調節	82
#091	Finderを使ったサウンドやムービーのフォーマット変換	82
#092	Finderを使ってムービーファイルから音声を抽出	83
#093	賢いカラーピッカーアプリを作る	84
#094	スクリーンキャプチャの隠し設定	87
#095	サウンドの入出力を素早く切り替える	88
#096	音量を極小に	89
#097	好みの警告音に変更	89
#098	マックの起動音の消音	91
#099	音声入力	92
#100	マックにしゃべらせる	94

8章 Dock 97

#101	Dockの拡大表示のオン/オフを一時的に切り替える	97
#102	Dockの項目の選択に矢印キーを利用	97
#103	Dockのスタック内の項目をクイックルック	99
#104	アプリで強制的に書類を開く	100
#105	ウインドウを最小化してDockに収納	100
#106	サイドバーの項目をDockに追加	101
#107	Dockを初期状態に戻す	102
#108	Dockのサイズを極小に	102
#109	Dockでスタックの隠しリストモードを利用	104
#110	Dockのアイコン上でスクロールジェスチャをして全ウインドウを表示	104
#111	Dockのスタックに視覚効果を追加	105
#112	Dockに「最近の項目」スタックを追加	106
#113	Dockに余白を追加	107
#114	Dockの外観と位置を調整	107
#115	Dockに「隠れている」アプリを見た目で区別	109
#116	Dockスタックのアニメーションを変える	109
#117	起動中のアプリだけをDockに表示	110

9章 Spotlight 113

#118	Spotlightのカテゴリを切り替え	113
#119	Spotlightで計算	113

#120	Spotlightで見つかったファイルの所在を表示	114
#121	SpotlightとDockでファイルの場所を表示	114
#122	Spotlightで検索されたファイルを好きなアプリで開く	115
#123	プロのようにSpotlightを使う	115
#124	Spotlightの検索条件を保存して再利用	118
#125	Spotlightの索引ファイル作成	119
#126	ファイルにタグを付けて検索を高速化	119
#127	Spotlightで検索できるファイルの種類を増やす	122
#128	Spotlightを使ったシステムファイルの検索	123

10章 クイックルック 127

#129	ファイル指定のダイアログでクイックルックを利用	128
#130	クイックルックしているファイルを素早く開く	128
#131	添付ファイルやウェブサイトをクイックルック	128
#132	クイックルックでウェブサイトを素早くチェック	129
#133	コマンドプロンプトでファイルをクイックルック	129
#134	クイックルックのウィンドウでテキストをコピー	130
#135	クイックルックできるファイルの種類を増やす	130

11章 ウィンドウ 131

#136	編集中のファイルの保存場所を確認	131
#137	ほかのアプリのウィンドウをすべて隠す	132
#138	ダイアログボックスのキャンセルを瞬時に行う	132
#139	保存ダイアログで素早くフォルダ移動	132
#140	メニューの隠し項目を表示	133
#141	書類ウィンドウ間の切り替え	134
#142	バックグラウンドウィンドウの扱い	134
#143	アプリのウィンドウを最大化	135
#144	ツールバーのアイコンを素早く並べ替える	136
#145	[開く] [保存する] のダイアログボックスでUnix流のパスを使う	136
#146	ひとつのプログラムウィンドウのみを表示	137
#147	スクロールを完璧に制御	138
#148	保存ダイアログを常に拡張モードで表示	140
#149	ウィンドウの大きさを簡単に変更	141

12章 Mission Control、Launchpad、Dashboard 143

#150	Mission Controlのパワーユーザになる	143
#151	Exposéをジェスチャで操作	145
#152	Mission Controlのハイライト色の変更	146
#153	Launchpadを自分専用のアプリ起動ツールにカスタマイズ	147
#154	LaunchpadにFinderを追加	149
#155	Launchpadの視覚効果の変更	149
#156	スペース切り替え時の待ち時間を短く	150
#157	Dashboardウィジェットを素早く削除	151
#158	Dashboardの表示を10.6以前の方式に戻す	151
#159	Dashboardで同じウィジェットを複製	151
#160	Dashboardウィジェットをデスクトップに表示	152
#161	Mission ControlやDashboardなどの無効化	153

13章 キーボード、マウス、トラックパッド 155

#162	マウスポインタを大きく	155
#163	デスクトップを拡大	155
#164	deleteキーの活用	156
#165	マックを即時に「システム終了」「再起動」「スリープ」させる	157
#166	キーボードのバックライト機能を有効に	157
#167	キーボードショートカットでファイルを移動	158
#168	ショートカットをoptionキーやcommandキーを使うように変更	158
#169	テンキーをショートカットキーとして利用	159
#170	Emacs風のカーソル移動などの利用	160
#171	Caps Lockキーを無効に	161
#172	マウスが接続されたらトラックパッドをオフ	161
#173	コンテキストメニューから余分なものを取り除く	162
#174	トラックパッドで3本指を活用	162

14章 プリンタとディスプレイ 165

#175	プリンタをプールして素早く印刷	165
#176	ドラッグ&ドロップで印刷	166
#177	PDFファイルを作成し指定のフォルダに自動収納	166
#178	プリンタソフトからドライバのみをインストール	167
#179	外部モニタできれいに表示されないフォント対策	168

#180	Finderの表示形式を即座に切り替える	169
#181	エイリアスの対象を変更	169
#182	ファイル選択の反転	170
#183	新規フォルダを簡単に作るショートカット	170
#184	メディアの取り出しボタンの追加	170
#185	ファイルのリストを素早く作成	171
#186	確実にゴミ箱を空に	171
#187	ファイルやフォルダのアイコンのカスタマイズ	172
#188	アプリのバージョンを調べる	173
#189	Finderのタイトルバーにフルパスを表示	174
#190	Finderのパスバーにホームからのパスを表示	174
#191	Finderの表示フォントを変更	175
#192	ライブラリフォルダを表示	176
#193	ファイルへのショートカットをデスクトップに即座に作る	177
#194	デスクトップ上のファイルの情報を常に表示	178
#195	ファイルを隠す	178
#196	Finderのカラム表示の幅を調整	180
#197	Finderから印刷	180
#198	Finder使用時の生産性向上	181
#199	ディスクの空き容量を知る	182
#200	複数ファイルの容量の合計を表示	183
#201	ラベルを使ってプロジェクトファイルを管理	183
#202	ファイルをロックして変更や消去を防止	184
#203	スプリングフォルダの待ち時間をなくす	185
#204	デスクトップのアイコンを非表示に	186
#205	ファイルの圧縮／展開を便利に	187
#206	キーボードショートカットによるデスクトップの表示	188
#207	最近作成されたファイルだけを表示	188
#208	ファイル名を素早く変更	189
#209	読み出し専用フォルダを明示	189
#210	ファイルの保存時やオープン時にFinderのウインドウを開く	190
#211	Finderウインドウのスクロールを改善	190
#212	Finderを終了	191
#213	Finderでファイル操作を取り消す	191
#214	選択した複数のファイルを入れる新規フォルダを作成	192

#215	ドラッグしながらデスクトップのアイコンを整列させる	192
#216	ドラッグ&ドロップを途中でキャンセル	192
#217	Finderのサイドバーにゴミ箱を追加	193
#218	メニューエクストラの右上のアイコンを並べ替える	194

16章 ネットワーク 195

#219	住所の位置を地図で確認	195
#220	Wi-Fiに関する詳細情報を見る	195
#221	マックを簡単にネットワーク接続	197
#222	共有フォルダやサーバに接続	198
#223	マック以外のコンピュータとの画面共有	199
#224	ネットワーク共有フォルダに邪魔な.DS_storeファイルの隠蔽	200
#225	ネットワーク障害の診断	200
#226	FinderからFTPサーバにあるファイルをダウンロード	201
#227	SSHおよびFTP接続の記憶	202
#228	別のコンピュータからファイルにアクセス	203
#229	ログイン時に自動的にファイルサーバに接続	204
#230	AirDrop非対応のマックとのAirDropファイル共有	205
#231	ウェブサイトをアプリにする	206
#232	動画をウェブサイトにアップロード	208

17章 Time Machineとセキュリティ 209

#233	ディスクが接続されていなくてもTime Machineでバックアップ	209
#234	Time Machineのバックアップ間隔の延長	210
#235	コマンドラインからTime Machineを起動	211
#236	Time Machineで新ディスク接続時のダイアログを非表示に	212
#237	Time Machineによるバックアップをより大きなディスクに移動	212
#238	他のマックのバックアップからファイルを復元	214
#239	USBメモリをパスワードでプロテクト	215
#240	ファイルを暗号化して安全に保管	218
#241	クロスプラットフォームの暗号化アーカイブの作成	221
#242	ダウンロードファイルの「検疫」の無効化	224
#243	スクリーンのロック	224
#244	忘れたパスワードを確認	225
#245	壊れたパスワードを修復	226
#246	秘密メモの作成	227

#247	MacBookのバッテリーを長持ちさせる	229
#248	マックを「冬眠」させて電気を節約	230
#249	ハードディスクのスリープまでの時間を短縮	231
#250	日光の下で画面を見やすく	232
#251	なかなか起きないマックを起こす	232
#252	自動的に起動させるアプリの指定	233
#253	システム環境設定の項目に素早くアクセス	233
#254	起動にかかる時間を短くする	235
#255	CPUの負荷と活動を監視	235
#256	ファイルの自動再オープンを停止	236
#257	コンピュータのRAMのアップグレード	237
#258	ディスクの使用状況を確認	238
#259	バッテリーの状態を確認	238
#260	起動時オプションの利用	239
#261	起動するOSの設定	240
#262	システム環境設定のアイコンを削除	240
#263	電源を接続したらスリープから復帰させる	241
#264	ソフトウェア・アップデートを永久に無視	242
#265	ソフトウェア・アップデートのダウンロードと保存	242
#266	マックをスリープモードにしない	244
#267	OS XのインストールDVDやブート可能USBメモリを作成	244
#268	マックの処理内容のスナップショットをとる	247

#269	メモリチップの検査	249
#270	ハングアップからの復旧	251
#271	ストレステストでマックの故障を見つける	252
#272	マックのハードウェア設定をリセット	253
#273	ディスクが壊れたらしいマックの修復	254
#274	クラッシュしたマックの制御を取り戻す	254
#275	取り出せなくなったCD/DVDを取り出す	255
#276	問題を起こしやすいセカンドディスプレイを正しく表示	256
#277	キャッシュの削除	256
#278	復元中にSafariを使う	257
#279	ディスクの問題を修復	257

20章 無用の用？ 259

#280	アンドロメダ銀河のオリジナル画像を入手	259
#281	アプリアイコンの拡大像を見る	259
#282	ダイアログボックスなどの表示時のアニメーションをやめる	261
#283	ログイン画像に視覚効果を適用	265
#284	DashboardとMission Controlの背景画像を変更	266
#285	スクリーンセーバをデスクトップの背景画像に	268
#286	ウインドウ最小化の視覚効果の秘密	270
#287	友人のマックにエイプリルフールのジョークを仕掛ける	270
#288	ゲームで遊ぶ	272

21章 プログラマ御用達 273

#289	全アプリを終了	273
#290	今いるフォルダでターミナルを起動	274
#291	ターミナルでの作業を記録	274
#292	コマンドラインからGUIアプリを起動	274
#293	ターミナルでSpotlight検索	276
#294	ルートユーザを有効に	277
#295	GUIアプリにコマンドラインの出力を渡す	278
#296	写真ファイルの名称変更の自動化	280
#297	画像に高品質な特殊効果を適用	282
#298	コマンドのマニュアルを表示	283

22章 その他のワザ 285

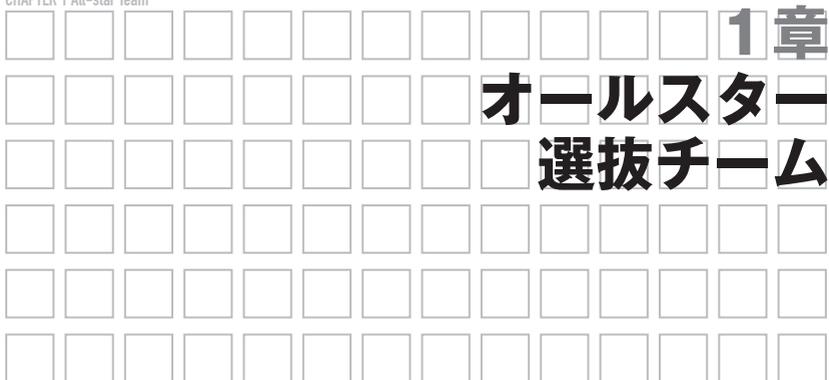
#299	デスクトップピクチャのファイル名を表示	285
#300	素早くカレンダーを見る	285
#301	iTunesのトラックをドックに表示	286
#302	マックのログイン画面で技術情報を表示	287
#303	Apple Remoteを使って起動ディスクを選択	288
#304	ログイン時のメッセージウインドウ表示	288
#305	アップル製品のマニュアルを読む	289
#306	アプリへのリンクを友人に送信	290
#307	外国のApp Storeをブラウズ	290
#308	データを失わずにウインドウズからマックに移行	290
#309	アップル製品以外のキーボードの利用	291
#310	マックの果てしない冒険 —— 必須アプリの数々	292

A.1	OS Xの画面の構成要素	295
A.2	Finder	296
A.3	メニュー項目の選択	297
A.4	バスの指定	298
A.5	ウインドウの構成要素	299
A.6	マウスとトラックパッドとポインタ	300
A.7	コンテキストメニューと右クリック	301
A.8	キーボードとショートカット	303
A.9	基本的な操作や設定	308
A.10	管理者	310
A.11	ログアウトと再ログイン	311
A.12	Time Machineによるバックアップ	312
A.13	ターミナルからのコマンド入力	312
A.14	コマンドの例	313

B.1	プレビューとiCloud	317
B.2	テキストエディットとiCloud	319
B.3	iCloudの保存場所と管理方法	320
B.4	フォトストリームの写真をウインドウズを経由してマックにコピー	321
	索引	323

コラム目次

OS Xの主要機能	— Mission Control	7
OS Xの主要機能	— Time Machine	16
OS Xの主要機能	— AppleScript	39
OS Xの主要機能	— オートセーブとバージョン	49
OS Xの主要機能	— Unix/Linuxユーザのためのマック	55
OS Xの主要機能	— Automator	121
OS Xの主要機能	— クイックルック	127
OS Xの主要機能	— AirDrop	197
OS Xの主要機能	— iCloud	202
OS Xの主要機能	— Macサーバ	205
OS Xの主要機能	— FileVault	218



この本の英語版では、300を超えるワザ (tip) が、ひとつの章の中に並べられていました。それはそれで「次に何が出てくるかわからない」楽しさがあるのですが、分類する（されている）のが好きな人が多そうな日本向けには「さすがに……」ということで、この翻訳版では、英語版にあげられているワザを22の章に分けて紹介することにしました。

原書の「次に何が出てくるかわからない」楽しさを再現しようと、1章は「オールスター選抜チーム」を編成してみることにしました。この最初の章では、2章以降の各章から1章にひとつ程度の割合で、マックを使い始めたばかりの人にも（訳者のように）四半世紀以上マックを使っているという人にも、「手軽に使えて役に立つけれど知っている人が多くなさそうなワザ」を集めてみました。

マックを使い始めたばかりという人は、まず付録Aから読み始めて次にこの章を読んでください。2章以降は好きな順番で読んでいただいてもかまいません。

それ以外の人は、この章に限らずどの章から読み始めてもかまいませんが、わからないことが出てきたら付録Aや索引を参照してください。

対応状況について

各ワザ (tip) の右側に、OSの各バージョンの対応状況（動くかどうか）を記しました。

左から、10.6、10.7、10.8、10.9? (10.9での予想) の順番で、「○」「△」「×」「—」「?」のいずれかが付いています。

アイコン	説明
○	(ほとんど) すべての機能の動作を確認できたもの、あるいは(たとえば故障等が起きていないため)実際には試せなかったがマニュアルなどの記述から動作すると考えられるもの、試してみても大丈夫と思われるもの
△	一部の機能は動かないもの、一部の機能しか動かないもの、あるいはそのバージョンでは新しい機能が加わったりしたためあまりお勧めではなくなったもの
×	動かないもの
—	対象外。そもそもその機能がない場合(たとえば、10.6にはMission ControlがないのでMission Control関連のワザは10.6についてはこのマークが付く)
?	環境(ハードウェア等)が準備できなかったため訳者の環境で確認できなかったもの(10.7については原著者が確認済み)。10.9については、動作しなくなる可能性があると思われるもの

#001



マウスを使わずにSpotlightからアプリを起動

皆さんはアプリケーション(アプリ)を起動するのにどんな方法を使っているでしょうか。画面下部のDock^{ドック}にあるアプリなら、Dockのアイコンをクリックして起動している人が多いでしょう。でも、Dockに入っていないものはどうしていますか。超初心者にはお勧めしませんが、ある程度慣れてきたらここで紹介する方法も試してみてください。時間の節約になること間違いなしです。

とにかく素早く起動したいのなら、control+スペース[↑]を押して、Spotlight^{スポットライト}を使うのが便利です。Spotlightはパソコン内に入っているデータやファイルなどの検索に使えるのですが、アプリの起動にも使えるのです。たとえば、iTunes^{アイチューズ}を起動したかったら、「itu」と入力すると[トップヒット]の欄に[iTunes]と表示されるので、returnキーを押すだけでiTunesを起動できます。同様に、Excel^{エクセル}を起動したければ、「Exc」と入力すると[トップヒット]の欄に[Microsoft Excel]と表示されるので、returnキーを押すだけでExcelを起動できます。

もちろん、DockにあるアプリでもSpotlightを使って起動することができます。キーボードから手を離したくないときにこの方法を使うのがお勧めです。

日本語環境では、カタカナや漢字の名前になっているアプリも同じように起動できます。たとえば、「プレ」だけ入力すると[トップヒット]に「プレビュー」が表示されますから、returnキーを押すだけで起動できます。

また、アプリの英語名を入力しても表示されるようです。たとえば、(半角のアルファベットで)terと入力するだけで「ターミナル」が、preと入力するだけで「プレビュー」が「トップヒット」として表示されるので、returnキーを押

† controlと書いてあるキーを押しながら、スペースを押します。キーの表記については付録Aを参照してください。画面右上にSpotlightの検索欄が表示されない場合は「ショートカット」の設定を変更していないか確認してください。

すだけで起動できます。このほかsysあるいはprefでシステム環境設定 (System Preferences)、keynでKeynote^{キーンノート}といった具合に使えます。皆さんの環境では、それまでに利用したアプリなどの影響で表示される項目や順番が少し変わるかもしれませんが、いろいろ試してみてください。

このほかのSpotlight関連のワザは9章にまとめました。

#002



ショートカットキーの長押しと短押しを使い分ける

^{ダッシュボード} Dashboardやデスクトップの表示、10.7以降ならば^{ミッションコントロール} Mission Controlや^{ローンチパッド} Launchpadを起動するキーボードショートカット (詳しくは付録A参照) を使っているのならば便利かもしれないワザを紹介しましょう。

ショートカットキーを押して、アプリなど (たとえば^{ダッシュボード} Dashboard) を呼び出して利用し、もう一度押してその機能を終了させるという使い方をしている人が多いと思います。ところが、ショートカットキーを押したままにすると、キーを押している間だけ有効になります。たとえば、F12 (あるいはfn+F12) をしばらく押したままにするとF12から指を離れた瞬間にDashboardを終了します。カレンダーや天気を確認してすぐに戻るといったときに便利です。

F11を押すと、表示されていたウィンドウが外に出ていってデスクトップが画面いっぱいに表示され、デスクトップにあるファイルやフォルダに関する処理が簡単にできるようになります。このショートカットも同じで、F11を長押しして離すと、その瞬間に外に出ていったウィンドウが元の位置に戻ってきます。お試しあれ!

キーボードやマウス、トラックパッド関連のワザは主に13章で紹介します。

#003



プロキシアイコンをドラッグして作業中のファイルを別アプリで開く

たとえばプレビューで写真を見ていて、友人にメールで送ってあげたくなるとしましょう。そんなときに便利なワザを紹介します。

プレビューのウィンドウの「タイトルバー」には現在作業中のファイルの名前が表示されています。その左に、ファイルを表す小さな「プロキシアイコン」があります。このアイコンをクリックしてしばらくマウスを押したままにしてからDockにある「メール」(10.7までは「Mail」)のアイコンに重ねてください。これでメールが起動してこのファイルを添付した新しいメッセージを準備してくれます。

もちろんこのワザはプレビューとメール以外の組でも使えます。たとえば、プレビューでちょっと写真を直していたのだけれど、Adobe Photoshop^{フォトショップ}で本格的な変更をしたくなったとしたら、プレビューのプロキシアイコンを、アプリケーションフォルダ（付録A参照）にあるPhotoshopのアイコンにドラッグ&ドロップすれば簡単に開けます。Photoshopが起動したらプレビューのウィンドウは閉じたほうが安心でしょう。どちらで編集しているのが混乱してしまいますし、アプリによってはファイルが使用中だというエラーメッセージが表示されてしまうかもしれません。また、10.7（Lion）の機能に完全対応していないアプリでは、最新版を保存しておいてからプロキシアイコンをドラッグしましょう（古いバージョンが開いてしまうかもしれません）。

Photoshopがすでに起動されているのならば、command+tabを押して「アプリケーションスイッチャ」を起動し、画面中央に表示されるPhotoshopのアイコンの上にプロキシアイコンをドロップしても同じです（ちょっと煩雑ですが）。

このほかプレビューで開いているPDF^{ピーディーエフ}ファイルをAdobe Acrobat^{アクロバット}で開いたり、テキストエディットで編集したファイル^{ページ}をPagesで開いたりといった具合にさまざまな組み合わせに応用できます。

画像編集アプリからドキュメントファイルへ画像を挿入

プロキシアイコンは、画像編集用のアプリから、文書ファイルなどに画像を追加するときにも使えます。

まず、画像を挿入するワープロやページレイアウト用アプリ（たとえばPages、Word、InDesignなど）のファイルを開きます。画像編集アプリ（プレビューやPhotoshopなど）に戻って一度保存してから、そのファイルのプロキシアイコンを長押しして、ワープロやページレイアウト用アプリのウィンドウにドラッグ&ドロップします。こうすることで画像を簡単に挿入できます。

プロキシアイコン、タイトルバーなど、ウィンドウのさまざまな構成要素やウィンドウそのものに関連するワザは11章にまとまっています。

#004



プレビューで複数の画像を ひとつのPDFにまとめる

画像ファイルはJPGやPNG^{ジェイペグ ピング}などの形式で保存されていることが多いのですが、たくさんの画像をまとめたものを印刷用に配布したいときなど、ひとつのPDF^{ピーディーエフ}ファイルにまとめると便利な場合があります。このような目的には「プレビュー」アプ

リを使うのが簡単です。

まず、ひとつの画像ファイルをPDFにする方法を紹介します。画像をPDFに変換するには、画像をプレビューで開いて、[ファイル] メニューから [プリント] を選択します。ダイアログボックス[†]が表示されるので、左下の [PDF] のボタンをクリックしてメニューから [PDFとして保存] を選択します。なお、[ファイル] → [書き出す] を使うこともできます。さらに、10.6では[ファイル]→[別名で保存]、10.8ではoptionを押しながら[ファイル]→[別名で保存]を選択して、[フォーマット] を [PDF] に指定して [保存] してもOKです (ちなみに [フォーマット] からファイル形式を選ぶときにoptionを押していると選択できるファイル形式が増えます)。

それでは本番です。複数の画像を全部まとめてひとつのPDFファイルにしたい場合は、Finder^{ファイナダー}ですべての画像を選択してからプレビューのアイコンにドラッグして一度に開きます。左あるいは右の「ドロワー」に表示されるサムネール (小さな画像) をひとつクリックしてからcommand+Aを押してすべてのサムネールを選択します。

10.7以降ではここで [ファイル] → [プリント] を選択し、ダイアログが表示されるので [PDF] ボタンを押して [PDFとして保存] を選択します。これですべての画像がひとつのファイルになったPDFファイルができあがります。なお、[ファイル] → [書き出す] でフォーマットをPDFにして保存してもOKです。

10.6の場合は [ファイル] → [選択したイメージをプリント] を選択して、左下の [PDF] ボタンを押して [PDFとして保存] を押します ([ファイル] メニューから選ぶのは [プリント] ではありません!)。

画像が回転してしまうのを防ぐには、[プリント] ダイアログにある [自動回転] のチェックを外します。[自動回転] が表示されていない場合は、10.8では一番上の [プリンタ] 欄の右側にある [詳細を表示] ボタン (▼) をクリックすると、隠れていた設定が表示されます。10.7までは [PDF] の右にある [詳細を表示] のボタンをクリックします。

プレビュー関連のワザは2章にまとまっています。また、iCloudとプレビューの関係については付録Bを参照してください。

[†] OS X側から何かを尋ねるときに表示される、小さなウィンドウ。この本では「ダイアログ」と表記する場合があります。

フルスクリーンでクイックルック

ファインダ
Finderやデスクトップでファイルを選択してスペースを押すと、ファイルをクリックルックできます。スペースに加えてoptionキーを同時に押すだけでクイックルックがフルスクリーンモードで開き、ファイルの内容をさらに詳しく見ることができます。難点はこのモードでクイックルックを起動すると、option+スペースを再度押してもクイックルックのウインドウが閉じないことです。escキーを押すか、画面下に表示される「フローティングツールバー」の一番右のアイコンを押す必要があります。

クイックルックでフルスクリーンと小さめのウインドウとを切り替えるには、右上あるいはウインドウ下中央に表示される矢印のアイコンやをクリックします。このほか、マルチタッチのトラックパッドがあれば、ピンチ[†]も使うことができます。指の間隔を広げるとフルスクリーンに、狭めると小さめのウインドウになります。

クイックルック関連のワザは10章で紹介します。

Mission Controlでクイックルック

10.7 (Lion) で登場したミッションコントロールMission Controlを使うと、現在実行中のアプリごとにウインドウをまとめて表示してくれるので、アプリやウインドウの切り替えが簡単に行えます(コラム「OS Xの主要機能 — Mission Control」を参照)。

Mission Controlでもクイックルック(Quick Look)が可能です。Dockにあるアイコンをクリックしたり、control+↑を押してMission Controlを起動すると、アプリごとにウインドウがまとめて表示されます。ここで詳しく見たいウインドウの上にマウスポインタを移動しスペースを押せばそのウインドウの内容が拡大表示されます。もう一度スペースを押せば元に戻ります。

Mission Controlを活用するためのこのほかのワザは12章にあげました。12章では、LaunchpadやDashboardに関連するワザも紹介します。

† 親指と中指など、2本の指をトラックパッドの上で広げたり閉じたりする動作。

OS Xの主要機能 — Mission Control

10.6 10.7 10.8 10.9

ミッションコントロール
Mission Controlは10.7から導入された比較的新しい機能（アプリ）で、各アプリに付随するウィンドウをわかりやすく（そしてカッコよく）管理してくれます。10.6にあったSpacesもこの中に統合されました。

Mission Controlを起動するには、標準ではドックの左側にあるアイコンをクリックするのが一番わかりやすいでしょう。なお、control+↑を押しても、マルチタッチトラックパッドで「3本指で上にスワイプ」しても起動できます（もちろんアプリケーションフォルダの [Mission Control] をダブルクリックしても起動できます）。

Mission Controlを起動すると、一番上に [Dashboard] と [デスクトップ] のサムネール（縮小化された画像）が表示され、その下に利用中のアプリごとにウィンドウがまとまってサムネールで表示されます（10.8ではアプリごとにまとめないようにも設定できます）。つまり、アプリの利用状況を「一望」できるわけです（図1-1）。各ファイルのサムネール画像が表示されるので、どのようなファイルを開いているかがわかり、クリックするだけでそのファイルが一番手前に移動して操作対象とすることができます。



図1-1 Mission Control

Spacesの管理もMission Controlが提供する大切な機能です。Spacesを使うと複数の「仮想デスクトップ」を作って切り替えながら作業を行います。たとえば、ウェブブラウザ専用の仮想デスクトップや、メール（Mail）専用の仮想デスクトップを作れます。

新しく仮想デスクトップを作成するには、Mission Controlの画面でマウスをウィンドウの右上角に移動します。すると「+」マークの書かれた領域が表示されるので、そこをクリックします。これで新しく「デスクトップ 2」が作成されます。

あるアプリを「デスクトップ 2」に移動するには、そのアプリのサムネールを「デスクトップ 2」にドラッグします（図1-2）。アプリのアイコンをドラッグするとそのアプリのウィンドウがすべて新しいデスクトップに移動します。アプリのひとつのウィンドウをドラッグすると、そのウィンドウだけが新しいデスクトップに移動します。



図1-2 新しく作った「デスクトップ 2」にFinderのウィンドウを移動

複数の仮想デスクトップのうちのひとつを消去するには、まず画面上部に表示されているデスクトップのサムネールの上にマウスポインタを移動し、そのサムネールの左上に表示される×印をクリックします。これでそれまでそのデスクトップに表示されていたウィンドウはほかのデスクトップに移動されて表示されるようになります（「デスクトップ 1」は消去できません）。

Safariでサイトの上位ページに素早く移動

メールなどでリンクをクリックしてウェブページを表示したとき、そのサイトについてももっと詳しく知りたいと思うときがよくあるのではないのでしょうか。そんなときは、Safariのタイトルバーにあるページのタイトルを右クリックしてみましょう（「コンテキストメニュー」を表示します。詳しくは付録A参照）。右クリックでも何も表示されないときはcontrolを押しながらクリックします。そのページのアドレスからそのサイトのトップまでのURLが階層順に表示され、素早く上位のページにアクセスできます（図1-3）。



図1-3 Safariでページのタイトルを右クリック

なお、Finderのウィンドウについても、タイトルバーに表示されているフォルダの名前を右クリックすると上位のフォルダが表示され、選択するとそのフォルダにすぐに移動できます。

Safariについては3章でいろいろなワザを紹介します。

頻繁にメールを送る人用のショートカット

ここで紹介するのは、同じ人宛に頻繁にメールを送る人のためのワザで、デスクトップにショートカットを作成し、ダブルクリックするとその人に宛てた新しい

メッセージが即座に作成されるというものです。

ショートカットはデスクトップに置く必要はありません。フォルダ内にメールショートカットを多数作って保存しておき^{フアインダ}Finderから開いてもよいですし、Finderウィンドウのサイドバーにドラッグしてワンクリックで利用できるショートカットにしてもよいでしょう。

連絡先を使ったショートカットの作成

アプリケーションフォルダにある「連絡先」(10.7までは「アドレスブック」)やウェブページ、メールの本文などにアドレスがあれば、それを選択してハイライトし、デスクトップにドラッグします。これでxxx.mailtolocという名前のファイルが作成されます(xxxはメールアドレス)。10.8では「メール」の[宛先]や[送信者]欄からもアドレスをドラッグすることができます。

10.6では、このファイルをダブルクリックすればMailが起動して、指定したアドレス宛のメールの編集ができます。

ところが10.7と10.8ではダブルクリックするだけではテキスト編集用のアプリ「テキストエディット」が起動されてしまいます(そのうちアップデートで修正されるかもしれませんが)。でも安心してください。.mailtolocという「拡張子」を.maillocに変えるだけでOKなのです[†]。拡張子を変えてからダブルクリックすると、メール編集用のウィンドウが表示されます。

拡張子を変えるには、次のようにするのが確実です(なお、付録Aで説明している方法で「拡張子を表示する」設定にした人は、ファイル名をクリックしてreturnを押すだけで変えられます)。

1. ファイルを選択してcommand+Iを押します。
2. [名前と拡張子]欄でxxx.mailtolocをxxx.maillocに変えます。
3. command+Wを押して(あるいは左上の赤い丸のボタンをクリックして)ウィンドウを閉じます。拡張子を変えてもよいか確認されるので、["mailloc"を使用]をクリックします。

テキストエディットを使ったショートカット作成

メールアドレスが「連絡先」などには書かれていない場合、テキストエディットで空白の書類を作成し、アドレスを入力します。それから、それを選択してデスクトップにドラッグして、拡張子を変えます。この方法でも同じ機能のショートカットが作成できます。

メール関連のワザは4章で紹介しています。

[†] <http://apple-japan-vm.hosted.jivesoftware.com/message/100684334#100684334>

テキストを巧みに選択

マウスをクリックしてドラッグすれば、文字を選択することができますが、範囲の指定方法はいくつか用意されています。このワザは、テキストエディットをはじめとするのマック標準のアプリだけでなく、Microsoft WordやMozilla Firefoxなど、さまざまなアプリで使うことができます（アプリによっては一部のワザは使えません）。

離れたテキストを選択

commandキーを使うと、離れた位置にあるテキストと一緒に選択することができます。たとえば段落のはじめにある文を選択してから、commandキーを押しながら、段落の終わりにある文を同時に選択することができます。そして、command+Cで両方をクリップボードにコピーできます。command+Vを押すと、両方の文が一緒にペーストされます。

テキストの矩形範囲を選択

optionキーを押しながらテキストをクリックしてドラッグすると、矩形（長方形）の範囲を選択できます（Microsoft Wordの場合はcommand+option）。command+Cでコピーして、command+Vでペーストできます。

ドラッグしないで選択

選択したい範囲の先頭をクリックしたら、shiftキーを押しながら範囲の末尾をクリックすると、先頭から末尾までのテキストを選択できます。

テキストを選択したあとにshiftキーを押しながらマウスをクリックして、先頭または末尾の位置を変えて、選択範囲を広げたり、狭めたりもできます。

矢印キーで選択

shiftキーを押しながら↑↓←→を押すと、選択範囲が上下左右に伸びたり縮んだりします。

option+shiftを押しながら←あるいは→を押すと、単語単位（日本語の場合は、文字種が変わるところが単位）で選択範囲が伸び縮みます。また、↑あるいは↓を押すと、段落の切れ目を単位に選択範囲が伸び縮みます。

command+shiftを押しながら→を押すと、そこから行末までが選択され、←を押すと行頭までが選択されます。↑を押すとそこからファイルの先頭までが、↓を押すとファイルの終わりまでが選択範囲となります。

ちなみに、optionを押しながら↑あるいは↓を押すと段落単位でカーソル（入力位置）が移動し、←あるいは→を押すと単語単位でカーソルが移動します。また、command+←で行頭に、command+→で行末に、command+↑でファイルの先頭に、command+↓でファイルの最後に、それぞれカーソルが移動します。また、fnキーを押しながら↑あるいは↓キーを押すとページ単位の移動になります。fnキーを押しながら←あるいは→キーを押すとHomeキーやEndキーを押したのと同じことになります。HomeキーやEndキーの機能はアプリによって変わりますが、ファイルの先頭あるいは末尾に移動したり、行頭あるいはあるいは行末に移動します。

なお、Microsoft Wordなどアップル以外のアプリでは、一部動作が異なる場合があります。

このほかの文字やテキスト、文書などに関連するワザは6章で紹介します。

#010



ムービーの再生位置の微調整

QuickTime Playerでムービー（動画）を再生すると、ウインドウ下部に再生や（逆）早送り用のボタンが表示されます。その下には「タイムライン」があり、タイムラインの中に再生中の位置を示す小さな菱形（再生ヘッド）があります。再生ヘッドをクリックして移動させると、動画の再生位置を素早く移動できます。

また、一時停止中に←や→を押すとコマ送りができます。長押しするとスロー（逆）再生になります。

10.7以降では、菱形の再生ヘッドを長押ししていると、タイムラインに白い目盛が現れ、再生ヘッドの周囲が「拡大表示」されるので、微妙な調整をして正確な位置に再生ヘッドを動かすことができます。ボタンを離すと元のタイムライン表示に戻ります。また、右向き三角の再生ボタンを長押ししていると、表示が目盛が変わり、そのままドラッグすることで速度を調整しながら、8倍速までの再生および逆再生をすることができます。

7章で、イメージ（画像）やムービー（動画）、サウンド（音）などに関連するワザを紹介します。

#011



フルスクリーンモードのときにDockを表示

10.7 (Lion) から、^{サファリ}Safariやメール、プレビューなどのアプリで「フルスクリーンモード」が使えるようになりました。アップル以外の（サードパーティの）アプリでも対応したものがどんどん増えています。このモードではメニューバーや^{ドック}Dockなど

が消えて、画面全体をそのアプリで独占して使えます。ウインドウ右上角に双方向の矢印が表示されているアプリでは、この部分をクリックすることでフルスクリーンモードに移行します。

フルスクリーンモードでは、マウスを画面の一番上に移動させるとメニューが表示されます。しかし、マウスを一番下に移動させてもDockは現れてはくれません。

実は、ここでもう一度、マウスを（少し強めに）下方向に移動するとDockが表示されるのです。一番下に移動して、マウスはそのままですら少しポーズをおいて、さらに下に移動するのがコツです（途中でマウスを上には移動させません）。少し練習が必要かもしれませんが慣れると難しくはありません。

Dock関連のワザは、8章でたくさん紹介しています。

#012



マウスを使わずキーボードでメニュー項目を選択

キーボードで作業中にマウスやトラックパッドに手を伸ばすと集中が途切れます。ありがたいことに、キーボードに手を置いたままでアプリのメニューやDockなどを操作できるのです。

メニュー

control+F2（あるいはfn+control+F2）を押すと、画面左上のアップルメニューが選択されます（リンゴのマークが反転表示されます）。

この状態になれば、あとは矢印キー（→←↓↑）を使ってメニュー項目を移動し、returnキーを押して項目を選択するだけです。

command+shift+/を押すと、多くのアプリでは[ヘルプ]メニューが選択されるので、右側のほうにあるメニュー項目を選択するには、ここから←を使って移動するのが便利でしょう。

Dock

control+F3（あるいはfn+control+F3）を押すとDockのアイコンが選択されます（最初に押したときはFinderのアイコンが、2回目以降は最後にこの操作で選択したアイコンが選択されます）。←→でアイコンを選択し、returnあるいはスペースで起動（切り替え）ができます。↑でそのアプリに関するDockのメニューが表示されます。escでアプリに戻ります。

キーボード、マウス、トラックパッドなどに関連するワザは13章で紹介します。

プリントジョブをクイックルック

アプリで「[プリント]」あるいは「[印刷]」を実行して、これから印刷されようとしているファイルを確認するには、「[システム環境設定]」→「[プリントとスキャン]」(10.6では「[プリントとファクス]」)と選択し、左に表示されるリストからプリンタを選択して「[プリントキューを開く]」ボタンをクリックします。

印刷待ちのプリントジョブが複数あって、どれがどのファイルのものかわからない場合はどうしたらよいでしょうか。リストから項目を選びダブルクリックすれば内容を確認できます(図1-4。10.8ではcommand+YでもOK。10.6および10.7ではスペースでもOK。いずれのバージョンでも「[ジョブ]」メニューから「["XXX"をクイックルック]」を選択しても表示されます)。



図1-4 プリントキューの項目をクイックルック

プリンタやディスプレイに関連するワザは14章で紹介します。

複数ページをもつPDFを即座に見分ける

Finderのウィンドウを「アイコン表示」にしておくと (command+1がショートカット)、2ページ以上のPDFファイルはアイコンの左側に黒いバインダーの綴じ部分があります。1ページしかないPDFのアイコンには綴じ部分がありません。

Finder関連にはたくさんの隠されたワザがあります。15章をご覧ください。

Time Machineからファイルを削除

タイムマシンはコンピュータ内のすべてのファイルを定期的にバックアップします(コラム「OS Xの主要機能 — Time Machine」を参照)。その中には、コンピュータから完全に消去したい個人情報もあるかもしれません。そんな場合、マックの中にあるファイルだけでなくバックアップディスクの中のファイルも消したいと思うのは当然でしょう。

操作は驚くほど簡単です。画面右上のTime Machineのアイコンをクリックし、バックアップが実行中であれば[バックアップ作成を中止]をクリックします。次に[Time Machineに入る]をクリックし、表示されたTime Machineのウィンドウで目的のファイルの保存場所に移動します。ファイルが見つかったら右クリックし、ポップアップメニューから[すべての"XXX"のバックアップを削除](XXXはファイル名)を選択します。パスワードの入力を促されたら入力してください(図1-5)。



図1-5 Time Machineから特定のファイルのバックアップを削除

Time Machineのウィンドウ左下の[キャンセル]をクリックします。デスクトップに戻ったら、消去したいファイルをすぐにゴミ箱にドラックします。念のため[確実にゴミ箱を空にする]のを忘れないようにしましょう(#186参照)。

Time Machineやセキュリティ関連の話題は17章にあります。

OS Xの主要機能 — Time Machine



タイムマシン
Time Machineを使えば、外付けハードドライブや、ネットワークで接続した
タイムカプセル
Time Capsuleに、システム全体のバックアップを作成できます。

Time Machineは「増分バックアップ」を作成します。つまり毎回変更された部分だけを記憶していくので、ファイルの最終バージョンだけでなく、そのファイルを最初に作成した時点にさかのぼるまでの複数のバージョンを復元できるのです。過去24時間については毎時間バックアップを保存しており、それ以前の過去1か月については毎日1回のバックアップになります。そしてさらに古いファイルについては毎週1回のバックアップに切り替わります。

ファイルを以前のバージョンに戻すには、画面右上のTime Machineアイコンをクリックし、[Time Machineに入る]を選択します。「タイムトンネル」の中を昔に戻るようなアニメーションが表示され、バックアップが作成された日時を示す時間軸が画面の右端に現れます。時間軸をクリックすれば、まるで魔法のようにその時点でのFinderに戻り、ファイルやフォルダが当時のままに表示されます。

システムに最悪の事態が起ころうとも、Time Machineを介してシステム全体を復元できます。

#016



アプリケーションスイッチャを使いこなす

commandキーを押しながらtabキーを押すと、現在動いているアプリを切り替えられます（ウィンドウズのAlt+Tabと同じです）。この「アプリケーションスイッチャ」をさらに便利に使う方法を紹介しましょう。

基本

まずは基本です。commandキーを押しながら、切り替えたいアプリがリストの中でハイライトされるまでtabキーを押します。逆順に動かすにはcommand+shift+tabを押します。command+tabを一度押したあとなら、←→キーでも移動できます。

目的のアプリがハイライトされたら、commandキーを離すとそのアプリのウィンドウが手前に表示されます。

アプリウインドウのプレビュー

切り替えの途中でアプリウインドウのプレビューを見るには、commandキーを押したまま↑か↓のキーを押します（「1」でもかまいません）。そうすると選択されているアプリで開いているウインドウだけが表示されます。ここでcommandキーを離し、マウスでウインドウを選択します。なお、アプリで開いているウインドウがないと何も表示されないことに注意してください。アプリを再度切り替えるには再びcommand+tabを押します。

最小化したウインドウを元に戻す

このワザは少し複雑そうに思えるかもしれませんが、慣れてしまえばとても重宝するものです。

command+tabでアプリを切り替えた場合、そのアプリのウインドウが最小化されていると、下のほうに小さな画像（サムネール）が表示されるだけで自動的に拡大されません。しかし、ちょっとしたワザでこの制限を回避できます（残念ながら最後に最小化したウインドウを拡大するだけで、アプリのすべてのウインドウを拡大できるわけではありません）。

最小化されているアプリがスイッチャのアイコンリスト内でハイライトされたら、（↑↓キーや「1」を押さずに）optionキーを押してcommandキーを離します。一番最後に最小化されたアプリケーションウインドウがDockから戻されます。ちょっと変なワザですが（筆者のように）便利だと思う人もいるでしょう。

アプリが起動してはいるが、最小化されたウインドウもなく、書類を編集してもない状態であった場合、このようにoptionキーを押したままにすると新しい書類が作成されます — アプリを開いて [ファイル] → [新規] を選択したのと同じことになります。

アプリの「終了」と「隠す」

アプリを終了するには、tabを押してアプリのアイコンをハイライトしてから「Q」を押します（commandは押したまま）。これでアプリを素早く終了できます（tabで移動しては「Q」を押すことを繰り返せば複数のアプリを素早く終了できます）。「Q」の代わりに「H」を押すとアプリのウインドウを隠します。すでに隠してあるアプリの場合は「H」を押すことでウインドウが再表示されます。

18章では、省エネルギーやノートブック関連など、OS Xのシステム関連の細かい設定や機能について紹介します。

マックの保証期間の確認

アップルのウェブサイトで、マックのみならず、所有しているアップル製ハードウェアすべての保証について確認することができます。

保証確認

10.7以降で、マックのサポートについて確認するには、アップルメニューをクリックし「このMacについて」を選択します。ダイアログが表示されるので「詳しい情報」ボタンをクリックし、表示されるウインドウ内にある「サービス」をクリックします。「サービスとサポートの保証状況を確認」をクリックすればウェブページが表示されます。

ほかのアップル製機器についての確認（10.6もOK）

iPhone、iPad、iPodなど、ほかのアップル製ハードウェアについても保証の詳細が確認できます。まずハードウェアのシリアル番号を見つけねばなりません。方法はさまざまですが、アップルのウェブページ（http://support.apple.com/kb/HT1349?viewlocale=ja_JP）に手順が解説されています。

シリアル番号がわかったらウェブブラウザを開いて<https://selfsolve.apple.com/GetWarranty.do>に移動します。「ハードウェア製品のシリアル番号」という入力欄にシリアル番号を入力します。「国」が正しく設定されていることを確認し、ボタン「続ける」をクリックします。

表示されるウェブページにある「保証状況とサービス期間をご確認ください。」というリンクをクリックします。

19章では、トラブルシューティングに関する話題を取り上げます。マックに関して何か困ったことが起こったら、19章の内容を確認してみてください。

アニメーションをスローモーションで表示

OS Xを使っているとアニメーションによる画面転換があちこちで登場しますが、shiftキーを押しながらクリックすればアニメーションがスローモーションで表示されます。

たとえばshiftキーを押しながらウインドウ左上の黄色のボタンを押してDockにウインドウをしまうと、その過程が見ていて楽しいスローモーションになります。

(F12あるいはfn+F12を押して) Dashboardを表示したとき、shiftキーを押しながら「天気 (Weather)」や「カレンダー (iCal)」をクリックしてみてください。

10.7以降では、shiftキーを押しながらMission Control^{ミッションコントロール}を起動するキーボードショートカットを押せば (つまりcontrol+shift+↑)、スローモーションで起動します。DockのMission Controlのアイコンをshiftキーと一緒に押せば、スローモーションでMission Controlのウィンドウに切り替わります。

この機能を追加させたのはAppleの元CEO、故スティーブ・ジョブズでした。OS Xを紹介する初めての基調講演で、ウインドウアニメーションの美しさを披露したかったからです。あれから10年以上がたちますが、この機能はいまだに健在です。

20章では、少なくとも表面的にはあまり役に立ちそうにないけれども、ちょっぴり楽しいワザを取り上げます。

21章には主にプログラマが好きそうなワザ (プログラマでなくてもワザを試すことはできます)、最後の22章にはその他の細々としたワザをあげました。

この章以降は好きのところから読み始めていただいて結構です。わからない用語や操作が出てきたら1章のコラムや付録A、それに索引を探してみてください。